

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	津田塾大学				
取 組 名 称	社会貢献は書く力とプロジェクト推進力から				
取組学部等	学芸学部				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A22140	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申請の分類	教養教育	キャリア	体験活動		
キーワード	女性リーダー, 人間力, 学生主導型プロジェクト, ライティングセンター, 社会貢献				

<選定理由>

本取組は、大学生たちの日本語文章作成能力の低下という現象に着目し、作文指導センターともいべきライティング・センターを学内に設置し、先輩・卒業生の参加を求めながら、学生たちの日本語作文能力を向上させようというプログラムであり、現代教育が求めているものを的確に把握し、対処しようとしている点で、特に優れている。さらに、この過程での教育と訓練を、学生たちの社会貢献に繋げていこうという構想は、本大学の理念に沿ったものであり、他の大学の参考になりうる普遍妥当性を有している。課外活動としての位置づけから始めて、次第に正課に組み入れていこうという段階的発展計画も現実的である。

ただし、ライティング・センターでの教育の結果をどのように評価するかという“しくみ”や、ライティング・センターでの教育プログラムの詳細については、具体的な提示がなされていないところもあるので、そのような点についての一層の工夫と具体化が期待される。

取組の概要

グローバル化と情報化が進んだ現代社会において、文書による表現力を備え、プロジェクト推進力のある人材のニーズは益々高まっている。国内外において円滑にコミュニケーションを図る力量は、仕事の企画・立案・実施・運営に必須の要素であり、その基盤となる日本語力強化のニーズが産官学各界で指摘されている。本取組では「キャリア教育推進タスクフォース」が、「リーダーシップを発揮する女性人材の育成」を目指し、「ライティングセンター」と「学生主導型プロジェクト」を両輪として実践的総合キャリア教育を推進する。その主要な特長は、日本語力の中でも、とりわけ「書く力」に裏打されたコミュニケーション能力の強化とこの能力の実践の場となる学生主導型プロジェクトの企画と運営の実体験を通じたリーダーシップスキルの養成を目指す点にある。この融合によって一層の人間力向上を図り、多様な場面に対応できるコミュニケーション能力とプロジェクト推進力に優れ、国内外の現代的ニーズに対応できる次のようなオールラウンドな人材育成を目標とする。**1) 国内外で活躍する女性リーダー、2) 生涯にわたって社会貢献する意欲を持続できる女性、3) 自ら課題に取り組み、問題解決の能力を備えた女性、4) 情報収集、発信力のある女性。**

女性人材について言えば、国連開発計画によるジェンダー・エンパワメント指数（GEM）が、2007年では世界93カ国中54位（『人間開発報告書2007年版』）、ジェンダー・ギャップ指数（GGI）131カ国中91位（世界経済フォーラム）と国際的にみて極めて低い日本において、政治経済の分野で意思決定に参画する女性リーダー及び高度専門職業人の増加が男女共同参画社会を加速化するためにも緊急課題となっている。今、大学は、「学び、社会に発信、貢献する」人材育成を目標に掲げ、コミュニケーション能力とリーダーシップを発揮できる女性プロフェッショナル育成のためのプログラム提供を求められている。

日本人の英語を駆使する力は、母語である日本語力や日本文化の理解に裏打されていてこそ、独自の社会貢献を可能にする。日本語力強化に軸足を置いた本取組で、自らの意思、思考、論理、感性を書き言葉で表現できるライティング・スキルを養成することは、キャリア教育の根源に立ち返ることでもある。日本語力、とりわけ「書く力」は、正課で履修する全科目に影響を与えるとともに、交渉力や発表力などすべてのコミュニケーション能力に通じる人間力の基礎ともなる。もう一つの柱である「学生主導型プロジェクト」では、国内外で活躍する卒業生をロールモデルとした講演会やパネルディスカッション、ワークショップを学生チームによる提案に基づいて実施する。独自のプロジェクトを仲間たちと協力して実現し、成功に導いたという達成感を実際に味わうことがリーダーシップの養成には必須である。本取組によって、学年や世代を超えた縦の関係を柔軟にし、学生自身が自らと社会の関係をより具体的に把握し、職業観や人生観など、大学という場で学ぶこととキャリアとの連関を豊かに想像することが可能になる。自ら推進するプロジェクトによって鍛えられる社会人基礎力や責任感、また、第一線で活躍するプロフェッショナルから得る知識を通して、「日本語能力」の向上が達成できるばかりでなく、自分たちの能力が社会で生かされることの意義が学生たち自身に認識されていく。その認識は、優れた人材になることへの責任感、その責任感を経てリーダーシップの発揮へと展開していくことが期待できる。同時に、これを支援する教職員の連携も学科や教員/職員の壁を越えてより弾力的に図られるとともに、現在関係部局ごとに実施されているキャリア支援型事業の横の連携が図られ、学生支援の全学的充実が期待される。取組の成果は、全学でFDにも活用し、女性リーダー育成のキャリア教育体系を構築する。